へ13
2378
223

遠 2378

立川焉馬著述　初編

歌川國安畫圖　全四冊

相撲推故傳

文政十三庚寅　江都横山町

孟春新鐫發市　岩戸屋喜三郎梓

書肆永壽堂榮林堂の両主我が草菴に來て相撲水滸傳を
撰ことあり往より今に至まで乃取手をえらぶ乃書ずあのばさうハ
称るれば猶まことあるべし意紙をつゞく相撲推故傳と題し
小冊を著し勞今年先其初編二編と巻を分て八冊なり
猶年々巻を次く一百八人に全せし像乃當世ると文章乃
拙ハ角髪等ゞ眼るを国るれるゆに書これば閑する大人
その雅をこゝろあるべきのみ

文政十三寅春新梓　二代目　立川焉馬述

従四位下左兵衛佐
紀の
名虎
少将伴
善雄を
文徳
天皇
御宇
御位争の
相撲有本文三出ス

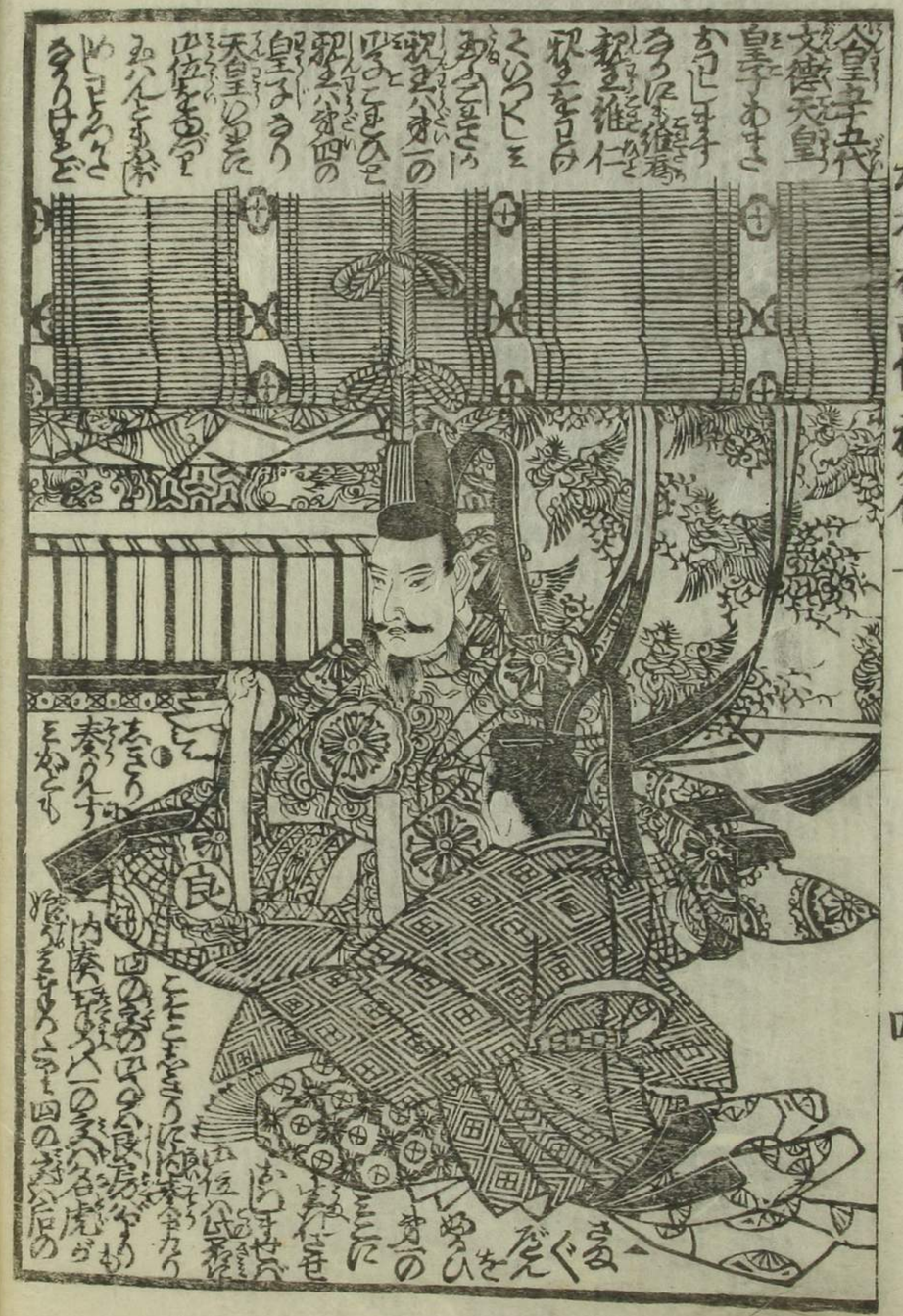
駿河國
我市の
仁王
宗平
一條院の御宇節會
軍手を勤む深山ゑ
猛獸を引裂

近江國高嶋
大炊子
古今の大力者
佐伯氏長に力を
与へ相撲節會
家手に
立む

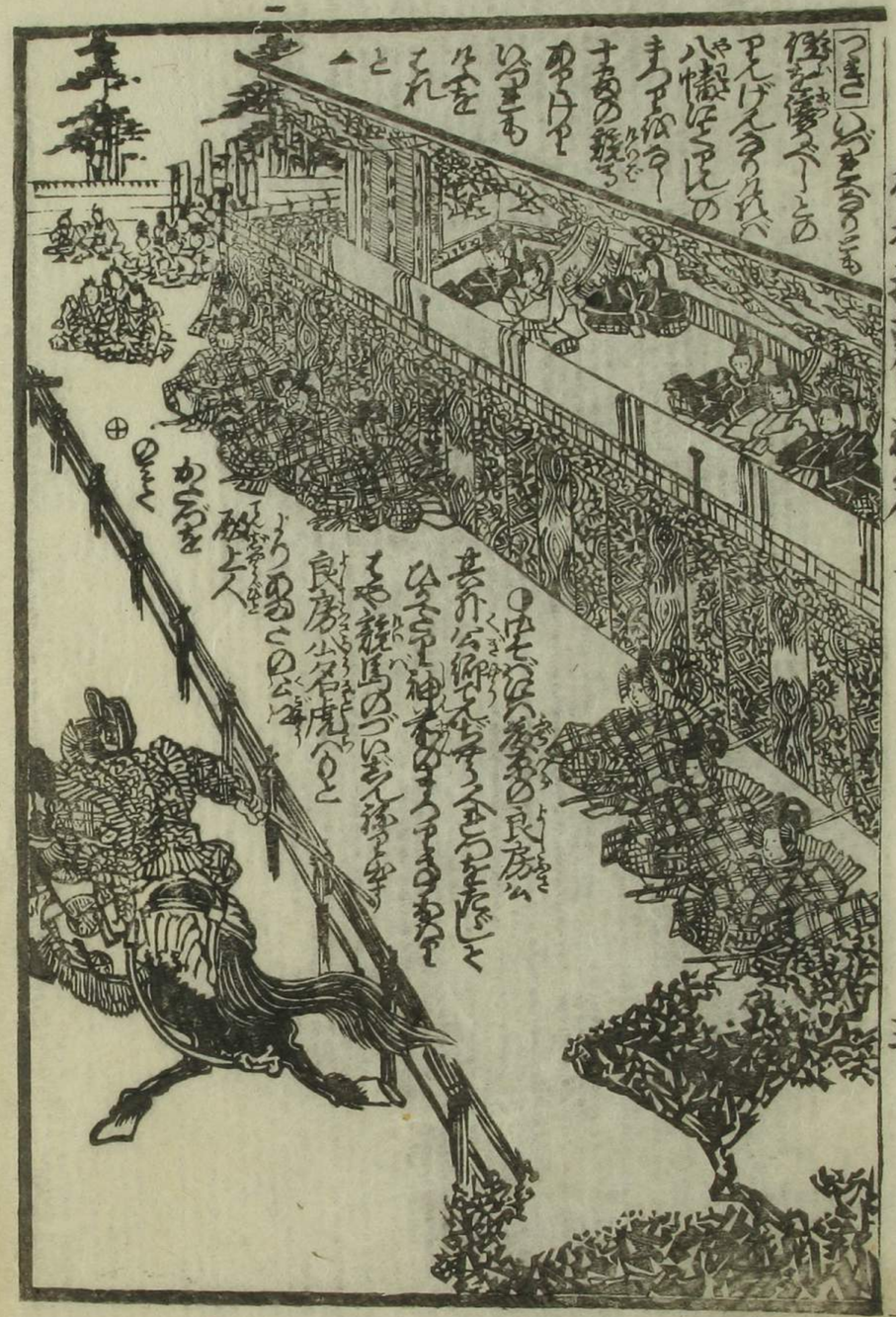
豊後國
日田
鬼藏
太夫
永季
身丈八尺にあまり
延久三年行年
十六歳にて節會の
家手を勤し若者
鬼童子を投ル

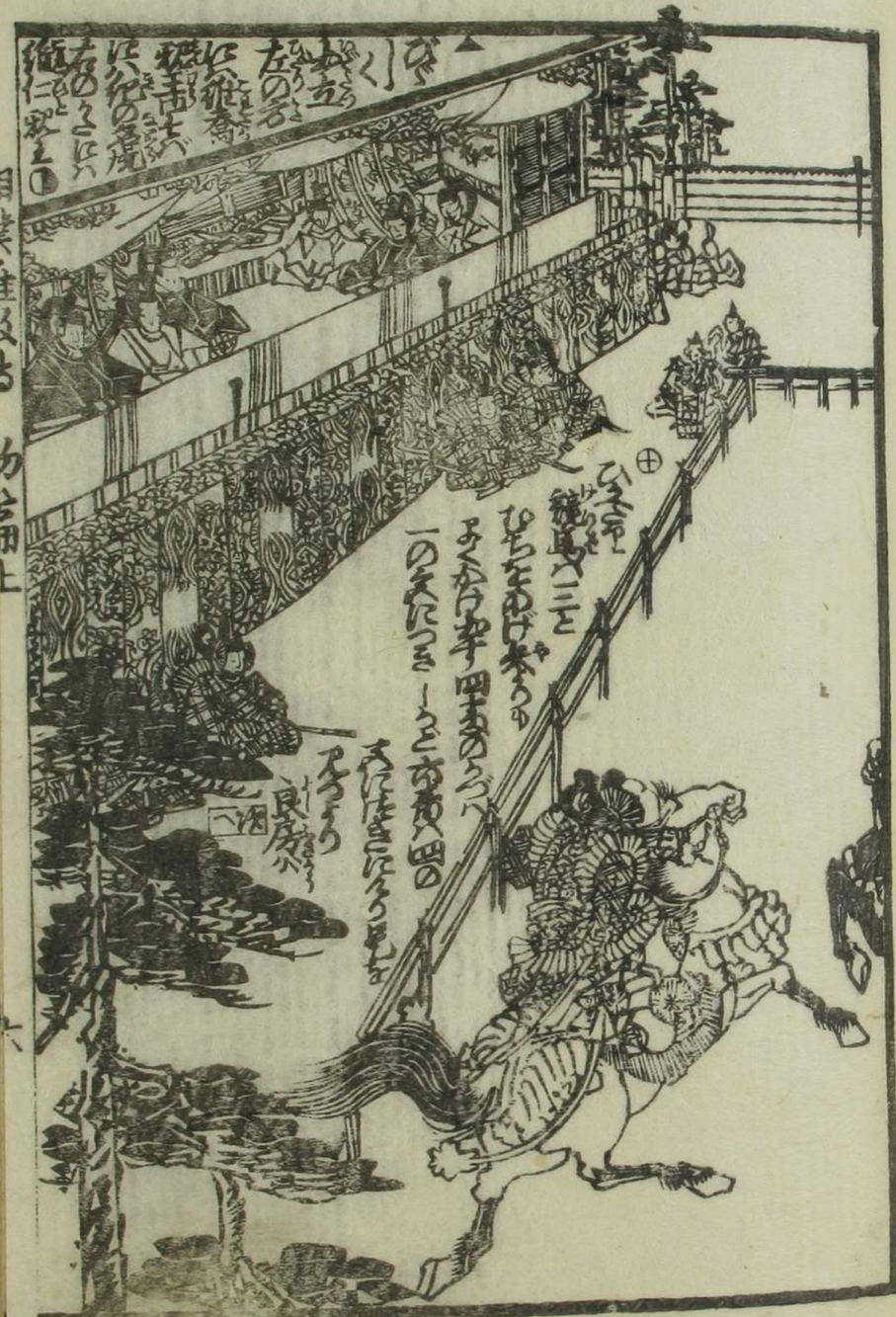
弘光法師
小熊伊成と力争を
入道す
諸國をまろうめぐり山賊をうち救す

尾張國
權頭伊遠子
小熊伊成
鳥羽院御宇相撲節會に最手を勤む
十五歳の時大熊をうちころしけるに
大熊の伊成とのゝしりをうつうふ小熊と名のつ


良

虎





相模稚児 後篇上

立川馬馬著 歌川國安画

清朝名医胡冤新傳方　陶朱公天受秘方良剤

身體平安湯

一ヶ　金百疋　手代　金二朱　銀五匁

○式茶碗に茶碗を添するといふまでもなく
りいろいろ下ごしらへ茶碗ひとつ茶碗
大茶碗ひとつ仙茶碗すんぐり茶碗
あらかたこれ茶碗にあらずのいさを
もん病せうちも血白血その外後の
いさを又は男子ばかりそぶらくとそぶら
あるひはのみせあるひはいさ紀男女共
すべて紙血のめぐらざる不用ひて永
効あるは神のめし一剤三貼へ日
三ぶくつ一ぶくを二度三度の食る
まへ用内外ともに下ごしらへ
高ひ大武平安湯不出むべし

調合所　岩戸屋喜三郎

冨貴自在運利香

一包代　二百世三乳

東都　細川起規製

弘所　岩戸屋喜三郎

○式茶碗は利用うの出来る茶碗にて
男女共ともに不合点中の人間は形ひ
ものあり上ものあるもの
る陸るが出不法ものぶるのもの
あるは不用ゆる時はんの紙ものるは神の
めし古くまで有の良剤なれば
○いきの赤ん用ひて永効あり又は
人参ものせ小児ハ式茶碗をもて貧
ものへ入ものあるのあり婦人ものあ
中ものもは紙人参を弱をまるめ也

相撲推故傳

初編

立川馬馬作

歌川國安画

西與岩戸梓

後

立川流墨画
角力横綱伝

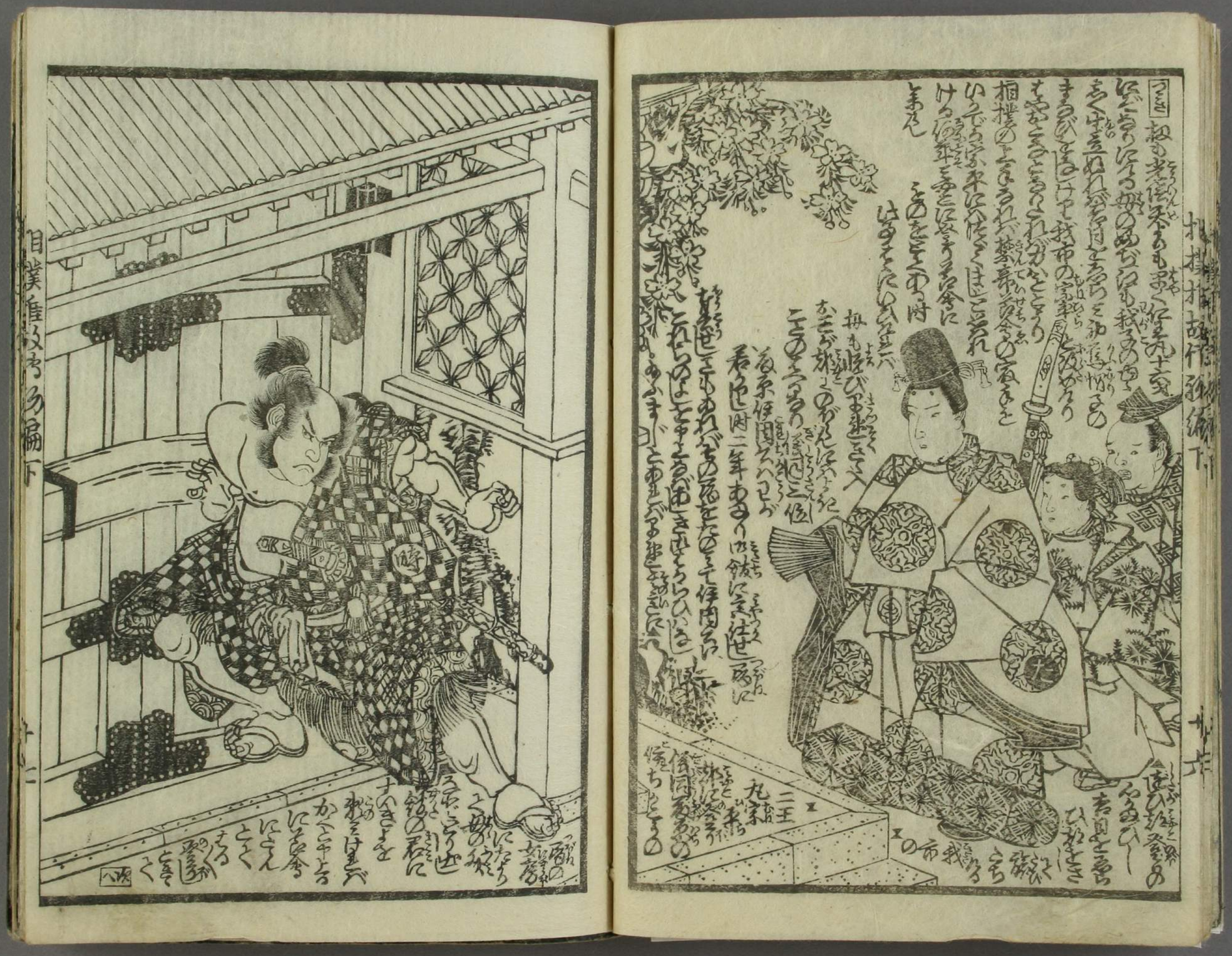
初編

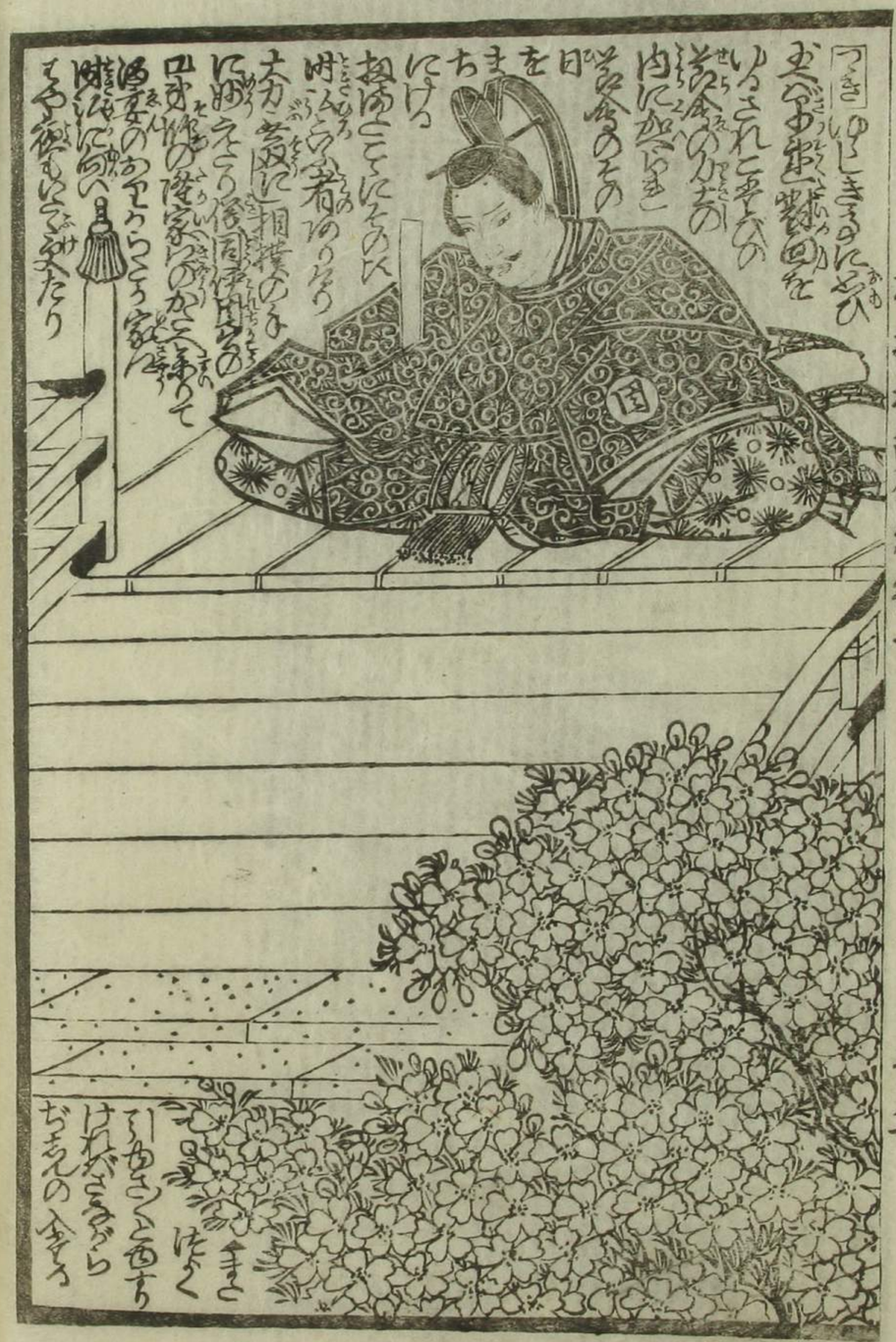
金冊

多満寿

東京宮戸町板

榮泉堂梓





文政十三年寅新板目録

角力水滸傳　全十冊　立川焉馬作　哥川国安画

新製小人嶋廻　全冊十返　舍一九作　歌五湖亭貞房画

小倉侍武藏鐙　女岸流英雄録　全四冊　立川焉馬作　哥川国信画

天下茶屋敵討　全四冊十返　舍一九作　哥川豊国画

無知哉論四編　全六冊　東里山人作　哥川豊国画

錄倉武鑑　頼朝公御代　初編二冊　三編二冊　導山板　御大名附

泰平武鑑　國分御大名附　諸御役人附　横本　一冊

足利武鑑　足利御代　御大名附　全一冊

日光御宮御參詣　供奉御役人附　横本

甘露寺の大うちわ　一ふく代七十二文

年忘これせき　一ふく代廿四文

妙見山黄表　一包代廿四文

懐中はやまり　一包　三百三十三粒

運利香　一包　三百三十三粒

えのたくさん茶わんとうど茶碗

板　江戸横山町二丁目　書物地本問屋　岩戸屋喜三郎

元　内流の毒丸薬出板仕

仙女香　京也有名　包四十八粒

一ふく代廿四文

ひとくさりのくすり　下すり　三百粒

毒丸　下すり　三百粒

仙女香　一ふく代廿四文

ひとくさりのくすり

ひとくさりのくすり

ひとくさりのくすり

相撲推故傳

二編

前

立斎馬作撰
歌川国安画

文政十三
庚寅春

立川焉馬撰
歌川國安画

相撲推故傳上冊

二編

文政十三年 伯樂街第二
庚寅春 永壽堂

丹後国の住人
海の恒世

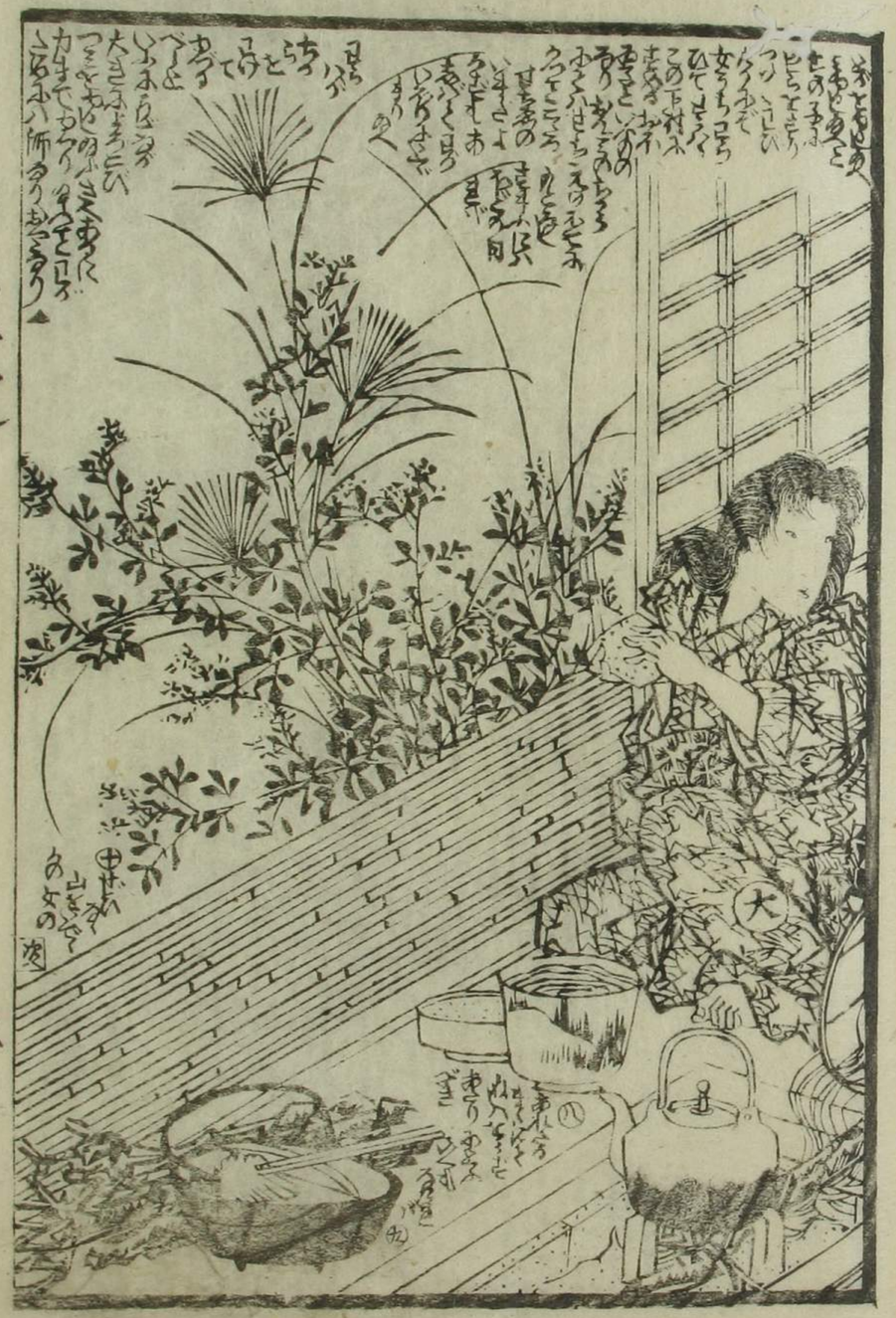
後一院の御宇同部會れ
右の最
千ちう成邑と
合の事 附り
化物と生捕
噺後巻に
出さと

中納言
伊實

股扶と
いとれ大力
乃相撲男を
投殺さて噺後巻に
出さと

甲斐文国の住人
大井光遠
年古き悪狐と抓あるす大勇れ
相撲男るり同嘶後巻に出て

美女れきまつえ
ある大力なり
山賊あまと打殺を嘶後巻ふ
大井光遠の妹木乃實



文政十三年庚寅春新板袋入標目

漢楚實擬選軍談第三編　曲亭馬琴作　初篇二篇丑春出板　歌川國安画

擬太閤記演義三國志　曲亭馬琴作　毎編合本四冊

ひゝなゝ歌舞伎物語　柳亭種彦作　歌川國丸画

國字水滸傳　八編　柳亭種彦譯　歌川國芳画

正本製十二編　柳亭種彦作　五渡亭國貞画

東都馬喰町貳丁目　永壽堂西村屋與八板

相撲推故傳

二編

多くはさとく
ものをさとる

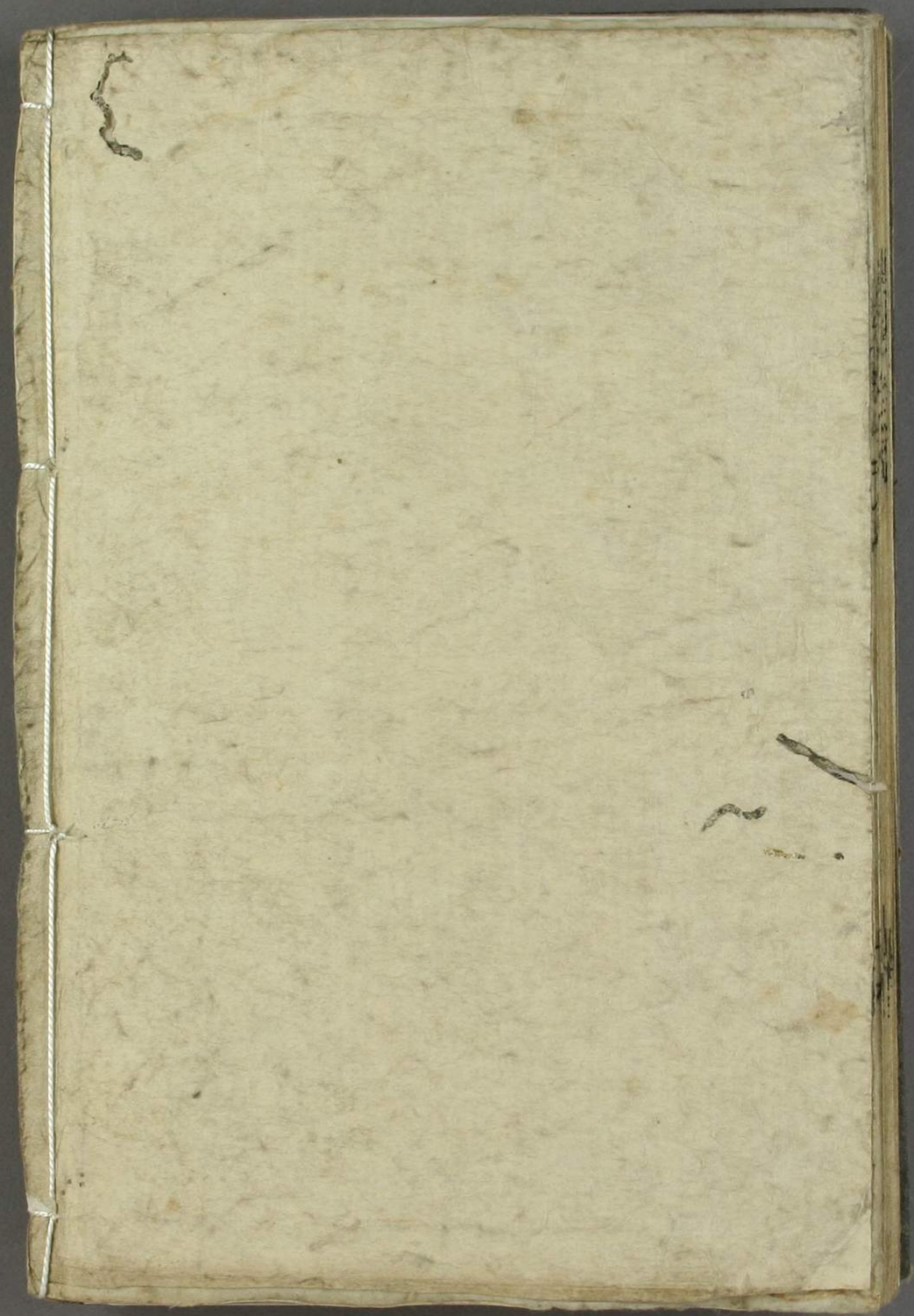
西與
山岩喜梓

立川馬場
哥川國安画

二編

相撲取伝

下冊

文政十三年 馬場
庚寅春

西村屋板